資料１

震災津波伝承施設（仮称）

展示等実施設計（骨子）案

（展示等基本設計とりまとめ修正案）

● 実施設計（骨子）案作成の趣旨

高田松原津波復興祈念公園内に整備する震災津波伝承施設（仮称）については、
平成 28 年度に展示等基本設計を行い、平成 28 年度第 2 回震災津波伝承施設検討委員会での議論を経て、平成 29 年 3 月 7 日、展示等基本設計をとりまとめたところです。

平成 29 年度に進めている展示等実施設計では、**「展示コンセプトをより明確に実現した価値の高い展示」**とするため、
展示ストーリー・レイアウトについて再検討し、今般、「展示等実施設計（骨子）案（展示等基本設計とりまとめ修正案）」を作成致しました。

2017 年 7 月 28 日

平成29年度 第 1 回高田松原津波復興祈念公園
震災津波伝承施設検討委員会

設計コンセプト

● 展示の基本的な考え方（震災津波伝承施設展示等基本計画より）

1 震災津波伝承施設の整備方針

- 東日本大震災津波の事実と教訓の世界そして未来への伝承
- 復興に立ち上がる姿と感謝の発信
- 三陸沿岸地域へのゲートウェイ機能を有する施設として整備
- 屋外の震災遺構等を震災被害の実物展示として活用

2 震災津波伝承施設の使命

- **多くの尊い命を失った東日本大震災津波のありのままの事実と命を守るための教訓を語り継ぎ、未来へ伝承**
- **世界に向け、災害を乗り越え、復興に向けて力強く歩んでいく姿を発信**

3 展示のテーマ（展示を通じ、問いかけるもの）

いのちを守り、海と大地と共に生きる

～二度と東日本大震災津波の悲しみを繰り返さないために～

4 展示の基本方針

東日本大震災津波の事実を浮き彫りにする展示

多面的な震災津波災害の事実をありのままに描き出す。

●津波の事実
●被害の事実
●避難生活の事実
●復興の事実　等

東日本大震災津波の実経験からの教訓を伝える展示

東日本大震災津波という未曾有の災害の実経験から得た教訓を伝える。

●「逃げる」教訓
●「助ける」教訓
●「支援する」教訓
●「復興」の教訓　等

津波災害への対応の歴史を学ぶ展示

津波災害と向き合い、備えてきた三陸地域の歴史などを通して、悲劇を繰り返さないために何をすべきかを考える場を創出する。

紙しばい　つなみ　作：田畑ヨシ

● 展示コンセプト

有識者や語り部等の意見も踏まえ、次のような4点を実現する展示を目指します。

私たちは「はかり知れない地球・自然災害リスクの高い日本列島」に生きていることへの気づきに導きます

動き続ける地球。その営みは科学・技術が高度に発達した現在でも計り知れないものです。人類は想像を超える大災害のリスクと常に隣り合わせにあること、東日本大震災津波も地球の営みから見ればその一つに過ぎないことへの気づきに導きます。

また、日本列島は地球上でも特に自然災害のリスクが高く、とりわけ三陸地域は、繰り返し津波に苦しめられてきた宿命の地であることを伝えます。そうした過酷な自然の中で懸命に生をかさね、その中で優れた智恵や技、文化を育んできたことを伝えます。

津波の脅威と失われた命の重さをしっかりと心に刻みます

多くの尊い命を奪い去った東日本大震災津波。この悲しみを再び繰り返さないためには、これからを生きる人々に、この震災津波がいかに大きなものであったのかを知ってもらうことが重要です。

そのために、展示を具現化するにあたっては、この度の震災津波の脅威の実相と、それを経験した被災した方々の思い、命が失われるということの重さをありのままの事実として訴えかけ、人々の記憶に刻みつける展示を目指します。
（ただし、子どもやそうした展示を見たくないという被災者の心情には配慮するものとします。）

人の意識・行動を変えることで命を守れることを学べる場とします

本施設が目指すのは、東日本大震災津波の経験から得た教訓を伝えることで未来の自然災害から人々の命を守ることです。地震や津波をコントロールすることはできないけれど、一人ひとりが自然災害に対する意識や行動を変え、備えをすることで、多くの命を守れるということを学べる場とします。

また、この未曾有の震災津波に我々日本人はどう立ち向ったのかを明らかにし、その経験から生まれた数々の教訓を未来の命を守る貴重な智恵として発信し、国内外の多くの人たちと共有できるようにします。

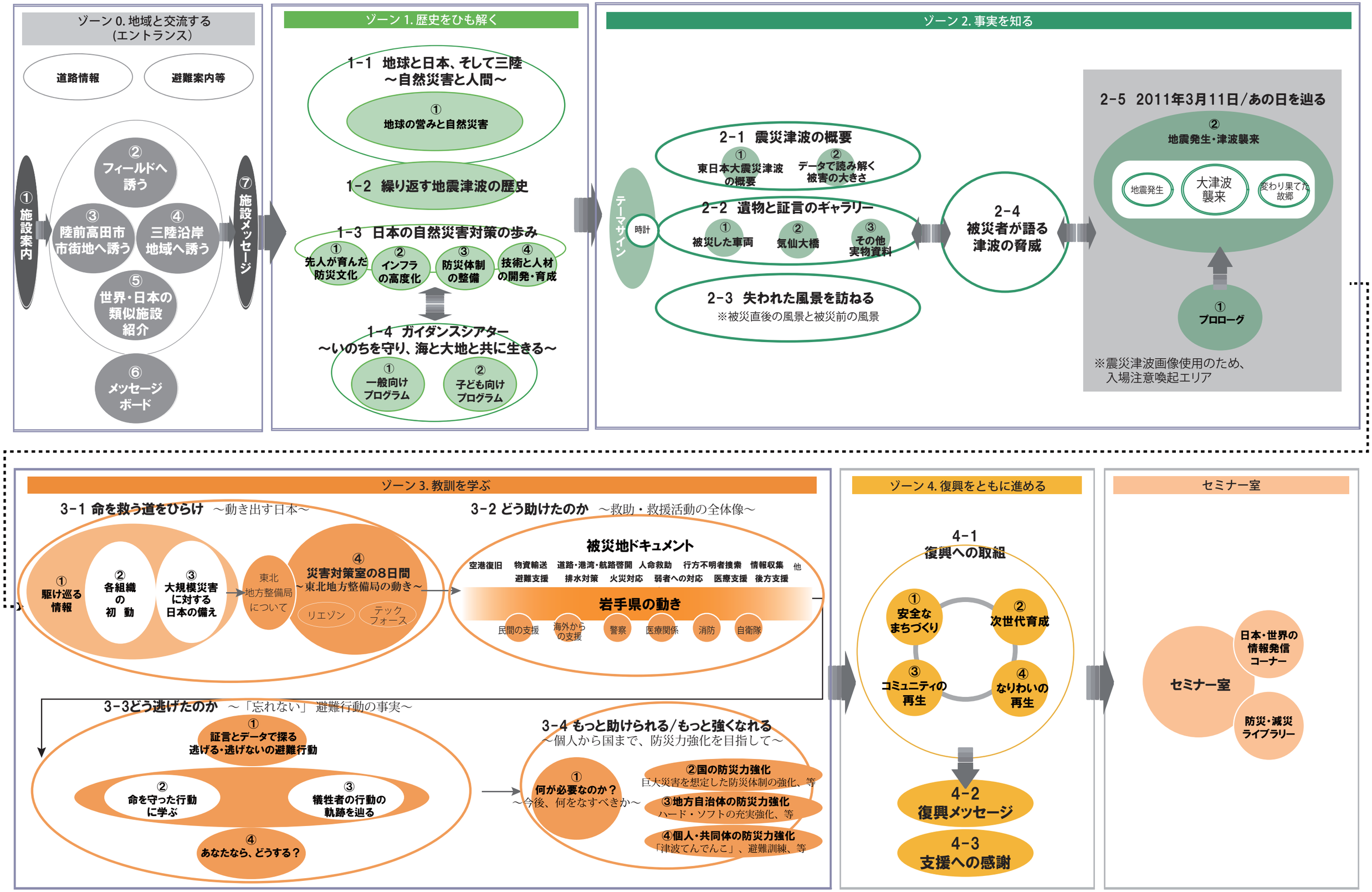
感謝の心を伝え、想い・智恵が凝縮した復興まちづくりを力強く発信します

全国・世界からのあたたかい支援に対する感謝の心を伝えるとともに、被災地の人々が願い取組んでいる、今度津波が来ても決して負けない地域づくりを力強く発信します。そこに秘められている復興に向けての夢や期待、あるいは、先端的な考え方や取組、新しい技術などを紹介し、復興まちづくりの生きたミュージアムとして三陸沿岸被災地を紹介します。

被災各地の復興への歩みとともに成長・発展する展示を工夫するなど、訪れた人々が被災地の営みや息づかいを身近に感じられるようにし、応援する心を育みます。

※下線部がより明確な展示を目指した部分

展示ストーリー構成


ゾーン 0. 地域と交流する
(エントランス)
道路情報
避難案内等
① 施設案内
② フィールドへ誘う
③ 陸前高田市市街地へ誘う
④ 三陸沿岸地域へ誘う
⑤ 世界・日本の類似施設紹介
⑥ メッセージボード
⑦ 施設メッセージ
ゾーン 1. 歴史をひも解く
1-1 地球と日本、そして三陸
～自然災害と人間～
① 地球の営みと自然災害
1-2 繰り返す地震津波の歴史
1-3 日本の自然災害対策の歩み
① 先人が育んだ防災文化
② インフラの高度化
③ 防災体制の整備
④ 技術と人材の開発・育成
1-4 ガイダンスシアター
～いのちを守り、海と大地と共に生きる～
① 一般向けプログラム
② 子ども向けプログラム
ゾーン 2. 事実を知る
テーマサイン
時計
2-1 震災津波の概要
① 東日本大震災津波の概要
② データで読み解く被害の大きさ
2-2 遺物と証言のギャラリー
① 被災した車両
② 気仙大橋
③ その他実物資料
2-3 失われた風景を訪ねる
※被災直後の風景と被災前の風景
2-4 被災者が語る津波の脅威
2-5 2011年3月11日/あの日を辿る
② 地震発生・津波襲来
地震発生
大津波襲来
変わり果てた故郷
① プロローグ
※震災津波画像使用のため、入場注意喚起エリア
ゾーン 3. 教訓を学ぶ
3-1 命を救う道をひらけ ～動き出す日本～
① 駆け巡る情報
② 各組織の初動
③ 大規模災害に対する日本の備え
東北地方整備局について
④ 災害対策室の8日間
～東北地方整備局の動き～
リエゾン
テックフォース
3-2 どう助けたのか ～救助・救援活動の全体像～
被災地ドキュメント
空港復旧 物資輸送 道路・港湾・航路啓開 人命救助 行方不明者捜索 情報収集 他
避難支援 排水対策 火災対応 弱者への対応 医療支援 後方支援
岩手県の動き
民間の支援
海外からの支援
警察
医療関係
消防
自衛隊
3-3どう逃げたのか ～「忘れない」 避難行動の事実～
① 証言とデータで探る 逃げる・逃げないの避難行動
② 命を守った行動に学ぶ
③ 犠牲者の行動の軌跡を辿る
④ あなたなら、どうする？
3-4 もっと助けられる/もっと強くなれる
～個人から国まで、防災力強化を目指して～
① 何が必要なのか？
～今後、何をなすべきか～
②国の防災力強化
巨大災害を想定した防災体制の強化、等
③地方自治体の防災力強化
ハード・ソフトの充実強化、等
④個人・共同体の防災力強化
「津波てんでんこ」、避難訓練、等
ゾーン 4. 復興をともに進める
4-1 復興への取組
① 安全なまちづくり
② 次世代育成
③ コミュニティの再生
④ なりわいの再生
4-2 復興メッセージ
4-3 支援への感謝
セミナー室
セミナー室
日本・世界の情報発信コーナー
防災・減災ライブラリー

展示展開1

※　赤字、赤点線丸囲い部分　が基本設計からの主な更新部分。

ゾーン０地域と交流する

旧ゾーン５の「地域と交流する」の機能の一部をこちらに移設。地域情報の発信を行うなど、多様な交流を育む場として、エントランス空間を整備する。24時間開放エリアなので、展示施設がクローズしている時でも、いつも地域情報を発信できるという新たなメリットが付加されることとなる。

①施設案内　②フィールドへ誘う　③陸前高田市市街地へ誘う　④三陸沿岸地域へ誘う　⑤世界・日本の類似施設紹介

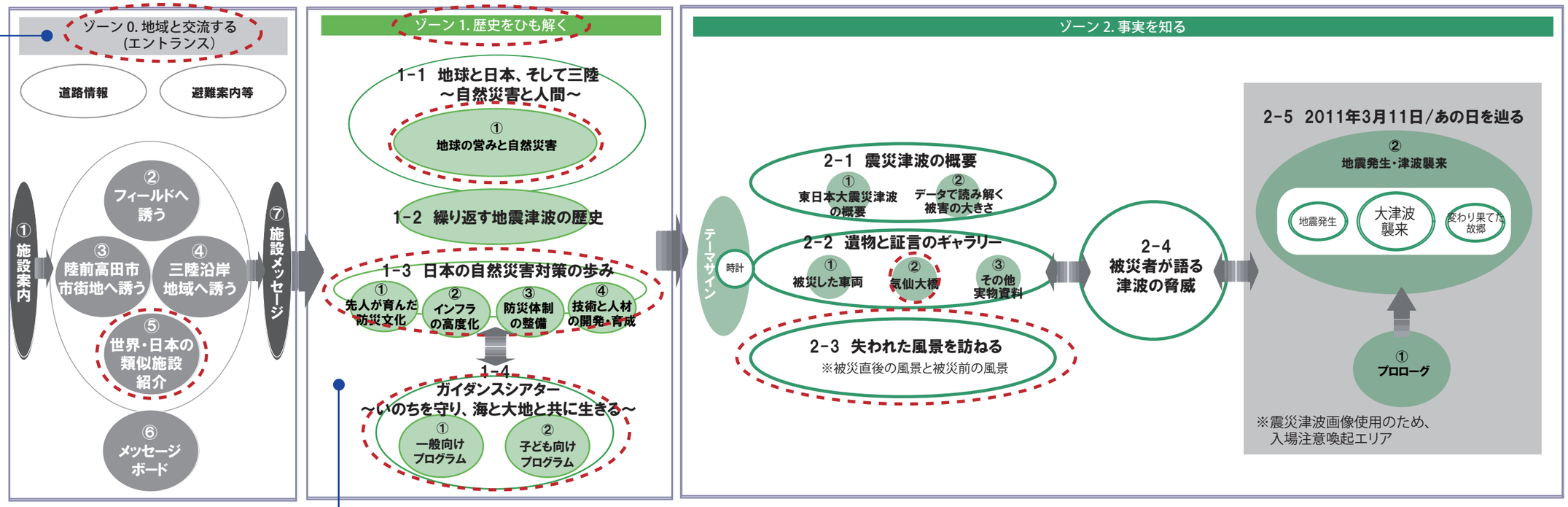
- **旧ゾーン５より移設した「地域と交流する」の要素を展開。**
- 本施設が立地する公園のフィールド、陸前高田市の復興市街地、そして、三陸沿岸地域へ 誘うゲートウェイとしての機能を持たせる。
- 公園内の震災遺構や陸前高田市内に新設された物販施設、三陸各地の震災伝承施設などを紹介。
- **福島、宮城のメモリアル施設はじめ国内の自然災害伝承施設や、世界の津波伝承施設を紹介する展示を追加。**
- 休憩スペースとしても利用できるようイス等も用意。

⑥メッセージボード

- 来館者が自由にメッセージを書き残せる展示装置。
- 被災地へのメッセージ、被災者からのメッセージをはじめ、展示の感想、防災への意欲など、多様なメッセージが想定される。
- メッセージは、蓄積され、みんなで共有できるようにする。

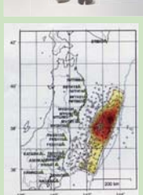
⑦施設メッセージ

- 展示の導入部として、展示を貫く趣旨をシンボリックに伝える。
- 被災地の人々はじめ、日本人は地震・津波など過酷な自然災害を宿命としながら懸命に生を重ねてきたこと、その姿を伝える。



1-1　地球と日本、そして三陸
～自然災害と人間～

- 地球の営みははかり知れず、想定を超える災害リスクを常に孕んでいることへの気づきに導く。
- **中でも日本は、突出して自然災害リスクが高いこと、とりわけ三陸地域は世界有数の津波常襲地域であることを伝える。**
- **これまでの地震・津波災害を地球の活動という視点からふりかえる。**
- **「平成23年東北地方太平洋沖地震」について、連鎖し広がっていくすべりの様子など、最先端技術で捉えたその姿を見せる。**



1-2　繰り返す地震津波の歴史

- 三陸地域を中心に全国にも視野を広げながら、繰り返し襲来した津波の事実と日本人がそれにどう立ち向かい乗り越えてきたのかを時系列で辿る。
- 貞観津波から東日本大震災までの津波の痕跡を残す地層の剥ぎ取りを導入として活用することを検討する。

1-3　日本の自然災害対策の歩み

- **自然災害を宿命とする日本が、これまでどのようにその宿命と闘い、乗り越えてきたのかを探るコーナー（新設）。**
- 先人が育んだ防災文化、インフラの高度化、防災体制の整備、技術と人材の開発・育成の大きく４つのテーマから内容をひも解く構成とする。
- 各地に残る津波石や災害に強いまちづくり、将来の津波災害から命を守るために行われた様々な取組を紹介。
- 耐震技術や防潮堤など、インフラを高度に発達させてきたことや防災体制を整備してきたことなどを紹介。
- その他、コミュニティにおける防災の取組や、防災のための人材育成なども紹介。

1-4　ガイダンスシアター　～いのちを守り、海と大地と共に生きる～

- **津波襲来の「宿命」と災害を「乗り越えようとする人間・社会」という視点で「いのちを守り、海と大地と共に生きる」をテーマとするこの施設の展示全体の主旨を総括して伝える。**

展示展開2

※　赤字、赤点線丸囲い部分　が基本設計からの主な更新部分。

テーマサイン

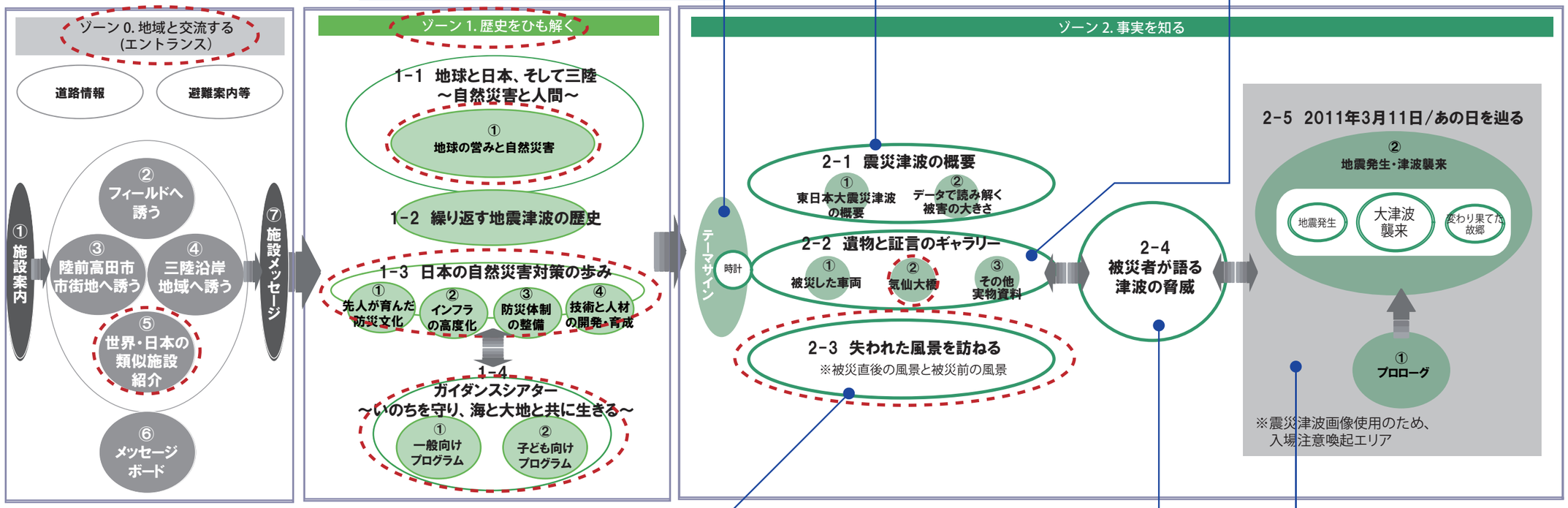
2011年３月11日、大震災に襲われたその時を感じられるよう、大震災発生によって止まった時計（実物）を象徴的に展示する。

2-1　震災津波の概要

東日本大震災津波の基本的情報を分かりやすく伝える場とする。東日本大震災の概要、岩手県の被害概要、東日本大震災の実態を各種データを用いて解説し、いわて震災津波アーカイブのデータも検索できるようにする。

2-2　遺物と証言のギャラリー

- 東日本大震災津波の実相について一人ひとりが思いを馳せ考える場とする。
- 東日本大震災の被災物を展示し、関連する証言を紹介するなど、背景にある事実を伝える。
- 水門を閉めに行って被災した消防車、駅や道路の看板や標識、**気仙大橋の一部**等の展示を検討中。



2-3　失われた風景を訪ねる

- **失われた風景を記憶・継承するとともに、被害の大きさを伝えるものとして、ゾーン１より移設。被災前後の風景を比較できるように展示。**
- **東日本大震災津波によって失われてしまった、三陸地域の町並みを広く取り上げるものとする。**
- **「タピック45」など、本施設が立地する地域の被災前の姿、被災直後の姿も伝え、フィールドへ出た時の予備知識にもなるようにする。**

被災前の町並

被災後の町並（2011/3/17山田町）

2-4　被災者が語る津波の脅威

- 被災者の体験、被災者が見た津波のリアルな姿を、被災者の証言、生の言葉より浮き彫りにする。
- 被災者一人ひとりの実体験、その場に遭遇したからこそ語れる言葉から、津波の恐ろしさ、津波被害の甚大さ、命の大切さや深い悲しみ・苦しみなどを、人々がそれぞれに自分に引き寄せて感じ、考えられる場とする。

2-5　2011年3月11日/あの日を辿る

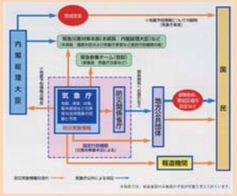
- 東日本大震災の津波がいかに巨大で、いかに恐ろしいものであったのか、その実相をしっかりと伝える。
- 実際の津波の姿を捉えた実写映像を活用して、津波の姿、その脅威を鮮明に描き出す。
- 三陸沿岸市町村を襲った津波がそれぞれに特徴的なふるまいをしたことなども描き、一筋縄では捉えることのできない津波の恐ろしさがあることも物語る。

※　赤字、赤点線丸囲い部分　が基本設計からの主な更新部分。

3-1　命を救う道をひらけ ～動き出す日本～
①駆け巡る情報　②各組織の初動　③大規模災害に対する日本の備え

・発災直後に人々はどのような状況に置かれていたのか。巨大災害に備え日本はどのような防災体制、防災対策を準備していたのか。
この度の震災津波では、各組織の初動はどのようなものであったのかを紹介するコーナー・演出を、ゾーン3の導入として新設。

災害対策室の前室のイメージ


防災体制

④　災害対策室の８日間　～東北地方整備局の動き～

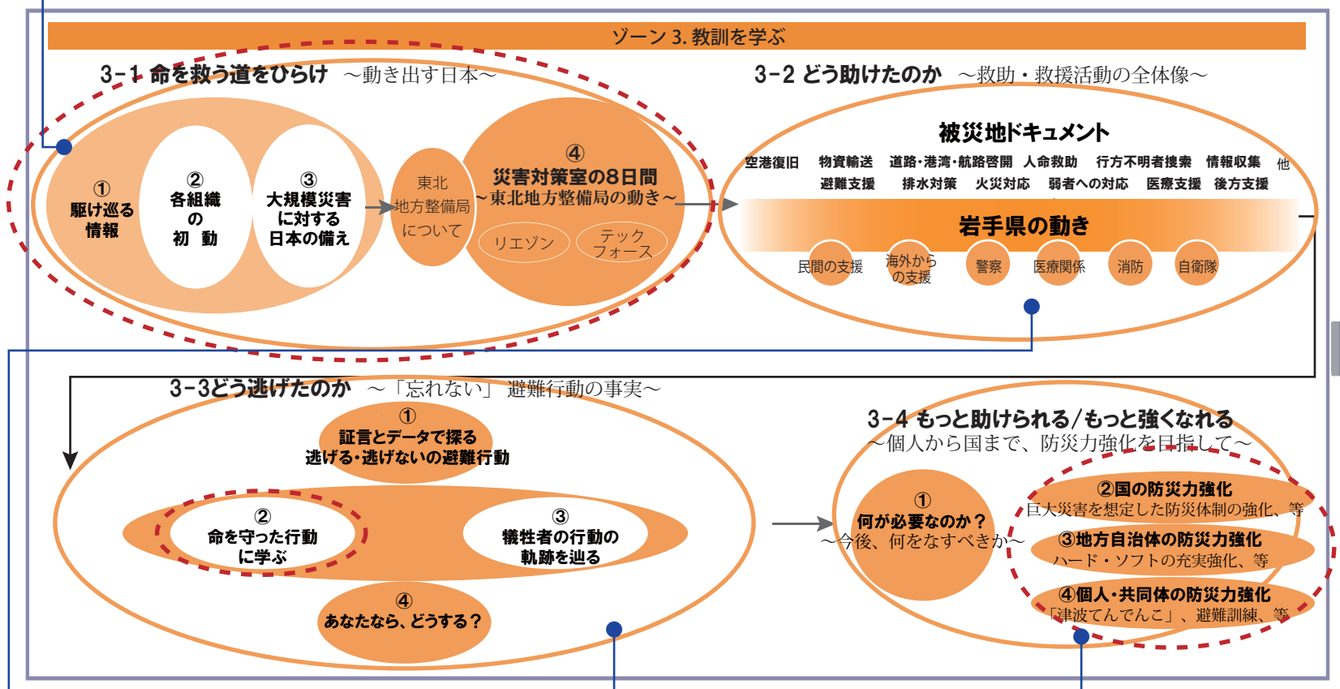
・災害対策室の位置をゾーン３の前半部分に移動。
・東北地方整備局をクローズアップし、その活動拠点であった災害対策室で実際にどのような初動がとられ、いかにして〝くしの歯作戦〟等が迅速に推進されえたのかを伝え、当時の災害対策室の様子を可能な限り忠実に再現する。
・また、その背景には日頃の〝備え〟があり、この備えがあったからこその動きであったことを伝える。
・リエゾン、テックフォースについても紹介。

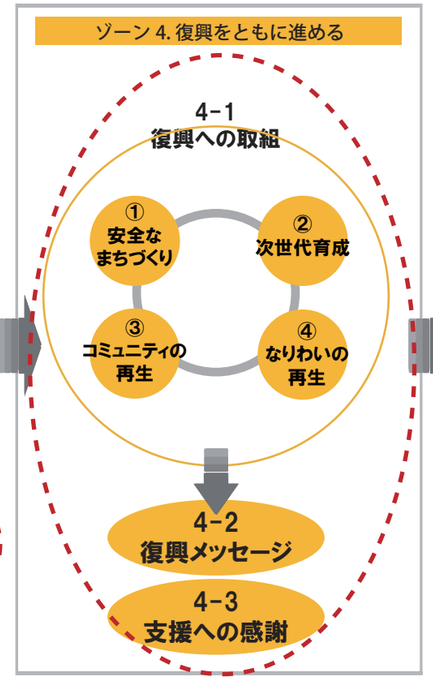
災害対策室（当時の様子を再現）

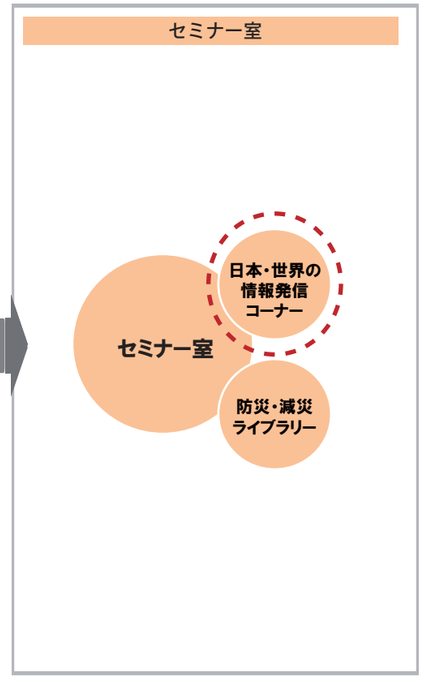
映像展開イメージ

・防災ヘリ「みちのく号」離陸
・3月11日の局長指示メモ
・仙台空港の排水作業　等

くしの歯作戦指示マップ

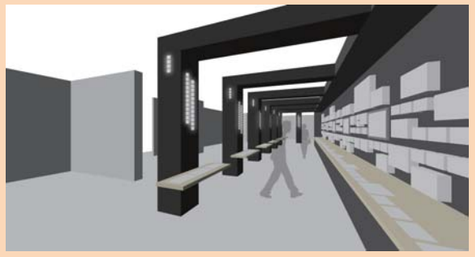






3-2　どう助けたのか？
～救助・救援活動の全体像～

・岩手県の動きを軸に、東日本大震災津波における救助・救援活動の推移、全体像を俯瞰する。
・こうした活動の背景には、積み重ねてきた〝備え〟があったことを示す。
・これらの経験を通じて生まれた教訓を掘り起こし、学べる場とする。



3-3　どう逃げたのか？
～「忘れない」避難行動の事実～

・「逃げる」ことへの意識と行動が、いかに人の運命を左右するのかを考える場とする。
・証言とデータで「逃げる」「逃げない」の避難行動の事実を伝え、教訓として学んでもらえるようにする。特に「なぜ逃げなかったのか」について、深く掘り下げる。
・岩手日報と首都大学が共同開発した『犠牲者の避難行動の軌跡』ソフトを導入し、重く深い事実を通じて避難行動の難しさ、大切さを心に刻んでもらえるようにする。
・未曾有の津波災害から命を守ることができた避難行動について、その行動の背景に、防災教育、啓発活動など、地元の人たちの努力があったこととあわせて伝える。
・一人ひとりに津波に遭遇した時の「行動」を問いかける展示も行う。

「犠牲者の避難行動の軌跡」

3-4　もっと助けられる/もっと強くなれる
～個人から国まで、防災力強化を目指して～

・この度の震災津波をふりかえり、何が必要なのか、今後何をなすべきかをみんなで考える場とする。
・個人レベル、地方自治体レベル、国家レベルそれぞれの未来に向けての防災力強化のビジョン、取組を紹介する展示を付け加える。
・「二段階防御」「多重防御」「多重防災型まちづくり」など、自然災害リスクの高い日本だからこそ、行きついた防災哲学などについても言及する。

展示展開4

※　赤字、赤点線丸囲い部分　が基本設計からの主な更新部分。

4-1　復興への取組

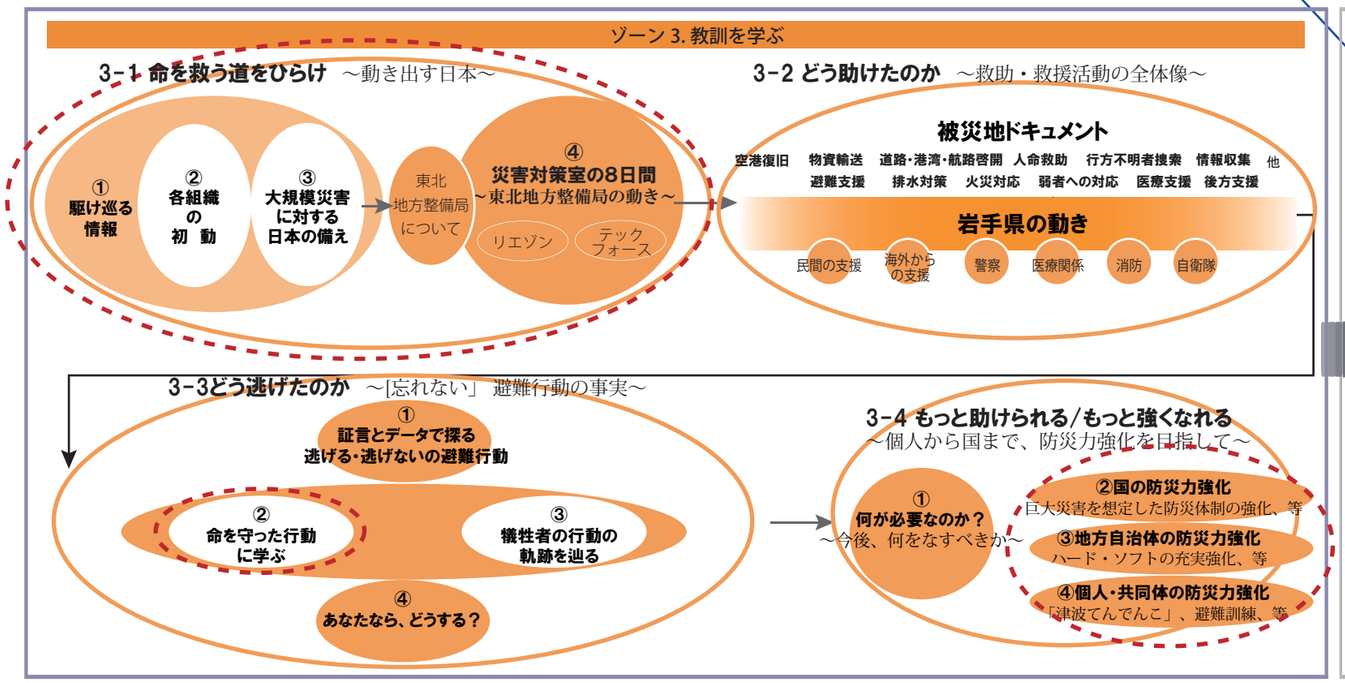
- **地域振興施設側に移設。**
- 「安全なまちづくり」「なりわいの再生」「次世代育成」「コミュニティの再生」の四つの切り口から復興への取組を紹介する。
- 復興へのビジョンとその取組の〝今〟について発信。
- 復興道路と新市街地、コンパクト＋ネットワーク等についても触れるものとする。
- 地域再生・復興に取り組む人々の姿を生き生きと伝えることを目指す。
- 日々進展する復興を取り上げることから、更新性の高い展示システムとする。

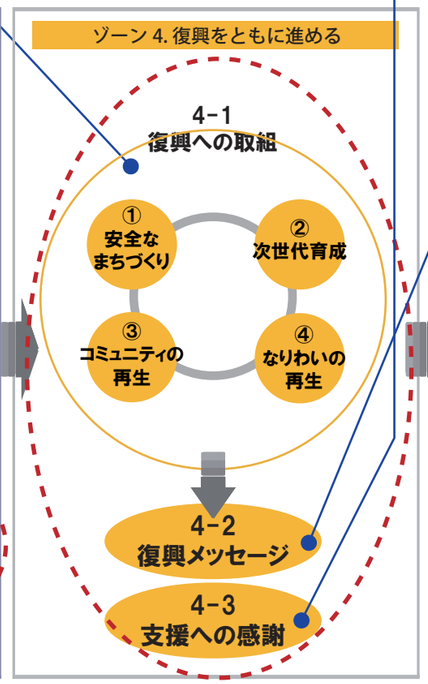
4-2　復興メッセージ

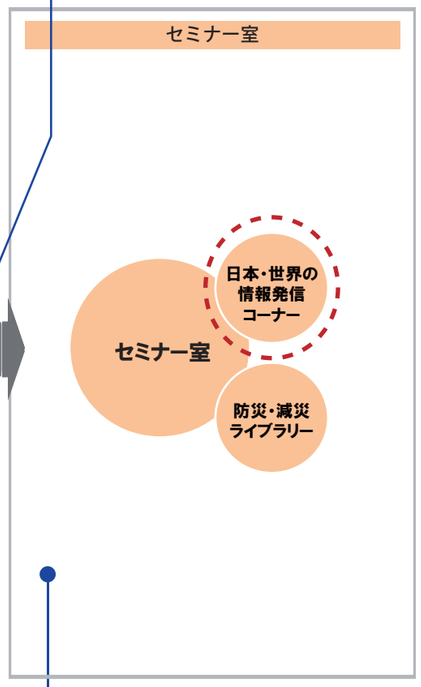
- 被災地の人々の復興に取り組んでいる姿、頑張っている姿を発信する。
- この経験とそこから培われた知恵を世界に発信していくことについて、国内外の来訪者に理解と共感を促す。

4-3　支援への感謝

- 国内外からの厚い支援に対する感謝の気持ちを伝える。



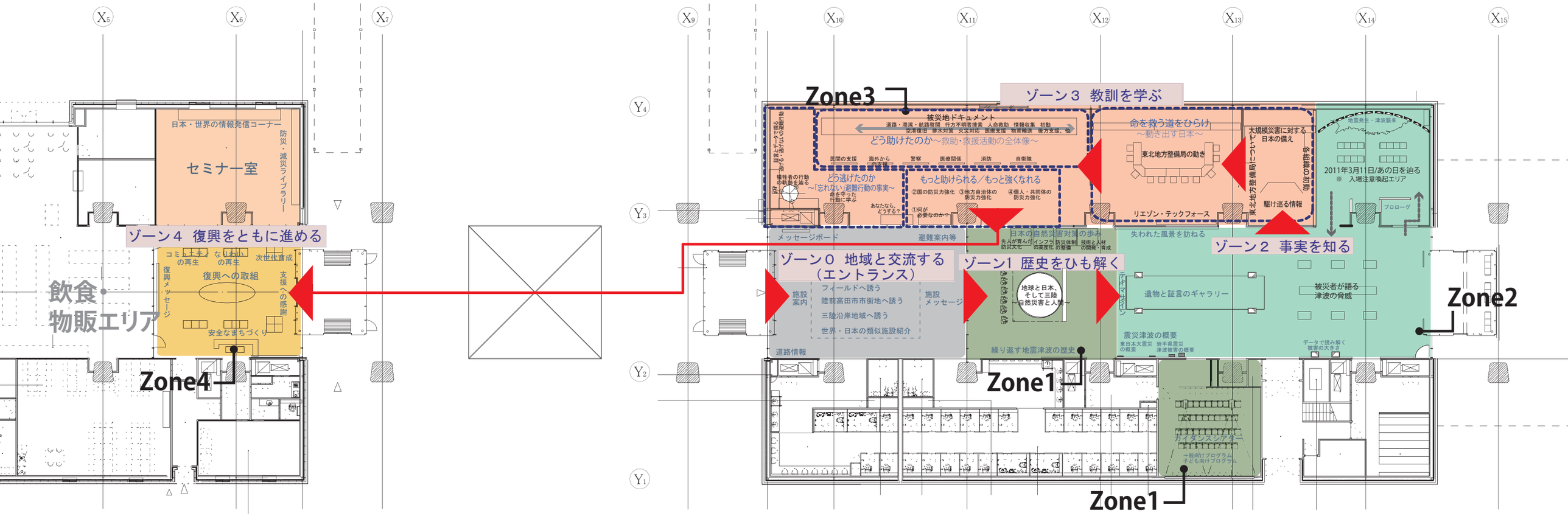




セミナー室

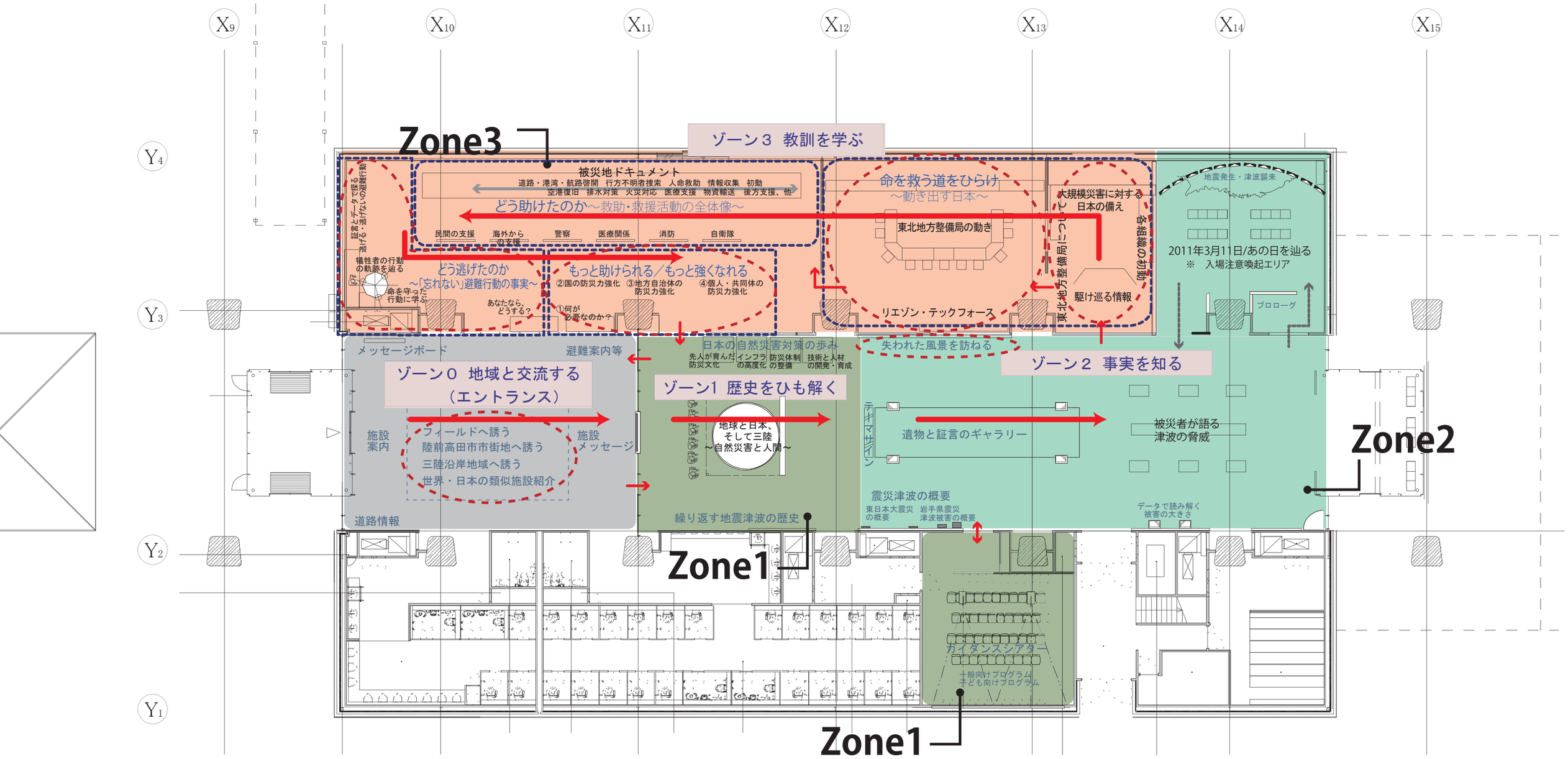
- ワークショップや講座、研修会等に活用。
- 団体利用のスペース、休憩室、団体用昼食スペースとしての活用も想定。
- 防災・減災ライブラリーを設置。
- **世界・日本の震災津波伝承施設、防災学習施設に関する補足的情報、最新情報などを提供する展示を付け加える。**

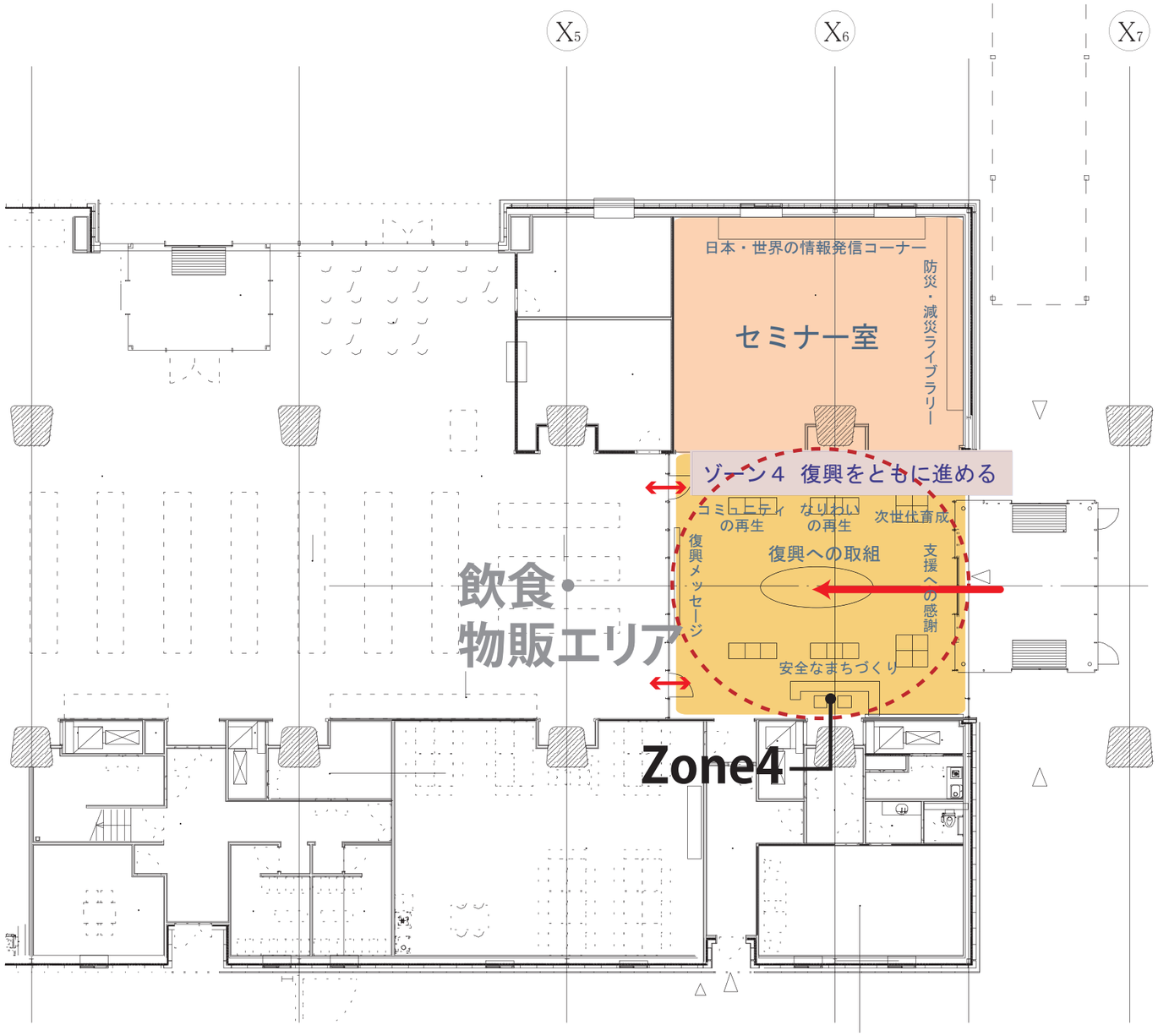
展示ゾーニング（全体）


Zone3
ゾーン３ 教訓を学ぶ
被災地ドキュメント
道路・港湾・航路啓開 行方不明者捜索 人命救助 情報収集 初動
空港復旧・排水対策 火災対応 医療支援 物資輸送 後方支援、他
どう助けたのか～救助・救援活動の全体像～
民間の支援 海外から の支援 警察 医療関係 消防 自衛隊
どう逃げたのか
～「忘れない」避難行動の事実～
命を守った 行動に学ぶ
犠牲者の行動 の軌跡を追る
あなたなら、 どうする？
もっと助けられる／もっと強くなれる
②国の防災力強化 ③地方自治体の 防災力強化 ④個人・共同体の 防災力強化
①何が 必要なのか？
命を救う道をひらけ
～動き出す日本～
東北地方整備局の動き
リエゾン・テックフォース
大規模災害に対する 日本の備え
駆け巡る情報
2011年3月11日/あの日を辿る
※ 入場注意喚起エリア
プローグ
ゾーン２ 事実を知る
失われた風景を訪ねる
被災者が語る 津波の脅威
震災津波の概要
東日本大震災 の概要
岩手県震災 津波被害の概要
データで読み解く 被害の大きさ
Zone2
メッセージボード
避難案内等
日本の自然災害対策の歩み
先人が育んだ 防災文化
インフラ の高度化
防災体制 の整備
技術と人材 の開発・育成
ゾーン０ 地域と交流する
（エントランス）
施設 案内
フィールドへ誘う
陸前高田市市街地へ誘う
三陸沿岸地域へ誘う
世界・日本の類似施設紹介
施設 メッセージ
道路情報
ゾーン1 歴史をひも解く
地球と日本、 そして三陸 自然災害と人間～
繰り返す地震津波の歴史
遺物と証言のギャラリー
Zone1
ガイダンスシアター
＋投向けプログラム
子ども向けプログラム
Zone1
セミナー室
日本・世界の情報発信コーナー
防災・減災ライブラリー
ゾーン４ 復興をともに進める
コミュニティ の再生
なりわい の再生
次世代育成
復興への取組
復興メッセージ
支援への感謝
安全なまちづくり
飲食
物販エリア
Zone4

展示平面図1

※　赤点線丸囲い部分　が基本設計からの主な更新部分。



展示平面図2

※ 赤点線丸囲い部分 が基本設計からの主な更新部分。